

NO39

B29の弾痕の残る墓石

所在地は津市寿町（三交バス「堀川町」下車 徒歩5分）



1945年3月以降、日本の主要都市は米軍のB29による激しい空襲にあい、次々と焦土化していきました。

津市でも空襲がくり返され、とくに6月から7月には激しい空襲がつづきました。

なかでも、もっとも被害の大きかった空襲は7月24日。この日は市街中心部に爆弾が投下され、死者約1200人、負傷者は約2000人に達したといわれています。

空襲は250キログラム爆弾でおこなわれ、飛来したB29の数は約70機といわれています。

また搭載した爆弾の数は各資料に明記されていませんが、各機が積載能力の50パーセントを搭載したと仮定しても、1330もの爆弾が投下されたことになります。

この激しい空襲により、寒松院の境内の墓地も被害を受け津の藩主であった藤堂家の墓も爆弾の破片により無残な傷を受けました。立ち並ぶ墓石に今もなお残る大きな傷跡は、当時の爆撃の激しさを物語っています。

20061105 掲載